

Jwima 通信
Japan Writing Instruments
Manufacturers Association

日本筆記具工業会

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692

発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL <http://www.jwima.org>

「経済産業大臣賞」受賞！

平成24年度工業標準化事業表彰 塩井恵子氏



多年にわたる描画材・筆記具に関する JIS 原案作成に寄与した功績が称えられ、(株)サクラクレパス技術・生産本部付顧問の塩井恵子氏が平成24年度工業標準化事業表彰にてみごと「経済産業大臣賞」を受賞しました。表彰式は、10月15日、東京港区の都市センターホテルにて行われました。JWIMAとしては、平成20年度の西本洋二氏(当時三菱鉛筆(株))に続き二人目の大臣賞の受賞となりました。

塩井氏は、昭和60年からISO/TC10/SC9 (ISO 筆記具分野の委員会)の活動に参画し、WG7 (製品の安全性)、WG8 (油性ボールペン)、WG9 (水性ボールペン)のISO規格作りに尽力しました。また、平成21年からはWG18

のコンビナー(議長)に就任し、筆記具の技術的な案件について各国の調整役を務めています。今年5月に取り下げが決定した「安全尾栓」のISO化審議についても大いに奔走・活躍し、世界の筆記具業界に多大なメリットをもたらしました。

【塩井恵子氏 職歴】

昭和45年4月 (株)サクラクレパス入社
同60年 品質評価センター長
平成2年 品質管理部長
同14年12月 取締役就任
同21年3月 顧問に就任、現在に至る。

第9回「JWIMA 会員研修会」を開催

本工業会は、10月23日台東区柳橋のベルモントホテルにて、第9回 JWIMA 会員研修会を開催しました。この研修会は、会員同士の情報共有と交流をはかるために毎年実施しており、講座も会員のニーズに合わせて各分野のスペシャリストに講師をお願いしています。今回も60名あまりの会員が出席、それぞれの講義に熱心に耳を傾けていました。



講座Ⅰ 欧州における製品安全基準の動向と 改正 EN71-3 への対応について

(株)サクラクレパス

技術・生産本部顧問 塩井恵子氏

(一財)日本文化用品安全試験所

化学分析部次長 川名康博氏

EU 地域で販売される子供向け製品の安全マークとしては「CE マーク」がよく知られているが、CE マークの貼付けが義務化されている指定商品は玩具だけでなく、機械、電子機器、医療機器などにも指定対象になるものがあり、それぞれ規格や試験条件が定められている。

玩具安全指令(TSD)が2009年に改正され、2013年7月20日から完全施行される。玩具の定義も「14歳未満の子供が遊びで使用することを(意図した)」から、「14歳未満の子供が遊びで使用する(可能性がある)」に範囲が拡大されている。

玩具とみなされる筆記具・描画材は、「色鉛筆」、「しゃぼん玉ペン」、「動物型のペン」、「取り



外せる形状の端を持つペン」、「チョーク」、「玩具絵具セット」、「フィンガーペイント」などである。

逆に玩具とみなされない筆記具・描画材は、「ゲルペン」、「手の込んだ描画用品」、「通常のペン、鉛筆」などである。

玩具とみなされるものは、TSDに適合(EN71シリーズに適合)し、CEマークを表示しなければならない。

TSDの化学的要求事項は、おそらく世界でも厳しいものであり、①重金属などの溶出に関しては、17元素 19種類について3つのカテゴリーに分けて基準が設けられおり、②他にアレルギー物質 55種と 10種の要表示物質、③N-ニトロソ化物質の 36ヶ月未満児への使用制限、④CLP規則のCMR物質（発がん性、変異毒性、生殖毒性）の使用不可、⑤REACH、CLPへの適合が求められている。

日本での販売品にも CE マークがついたものがあるが、来年 7 月以降は景表法違反になる恐れがある。①CE マークを外すか、②EN71 シリーズに適合させるか、③欧州と国内向けを分けて仕様を替える必要がある。

日本文化用品安全試験所の川名講師からは、同試験所の新EN71-3への対応状況について説明が行われた。①17元素分析に必要な新しい分析機器の導入、②分析試験の開始については来年 1 月頃を予定、③試験にかかる費用については、従来の 8 元素の時とあまり大きくかけ離れないようにしたい（まずグロスで分析し、スズとクロムがあれば別途それ用の試験を行う。）とのことであった。

講座Ⅱ 中小企業のソーシャルメディア・クラウド活用術

中小企業診断士

(株)スプラム 代表取締役 竹内幸次氏



世界人口 60 億人のうち 24 億人がインターネットを行っており、そのうちの 10 億人がフェイスブックをやっている（フェイスブック普及率 42%）。日本のフェイスブック普及率は 12%

と低く、日本人にとっては何かしらの抵抗感があるのかも知れない。

日本は、世界で一番安くインターネットが利用できる国で、これを経営に生かさない経営者は駄目である。経済産業省のポータルサイトなどで海外から注文を受けるノウハウを授けてくれるものがあるので利用すべし。

日本のインターネット普及率は 79.1%で、9,610 万人が利用している。ここ数年は高齢者が利用しており、いわゆる団塊の世代あたりがネットで情報を収集したり、買い物を楽しんだりしている。デフレの収束もこのあたりから始まるかも知れない。中には知的好奇心を持った富裕層を対象とする“WEB-NILE”というサイトもあり、高級・高額な商品・サービスのみの販売を行っている。富裕層というのを年収 1,000 万円以上と仮に定義すると、11%の人がそれに該当し結構大きなマーケットになる。

「フェイスブック」は個人向けであるのに対し、“Facebook”は企業向けで、企業にとっていろいろ活用ができる。海外向けや新規開拓向けに運用でき、国別にアクセス制限も可能である。

クラウド・コンピューティングとは、ネットワーク特にインターネットをベースとした利用形態のことで、大震災後は中小企業の利用率は高まっている。

USB メモリーはウィルスの心配があり危険なものになってきた。ネットに USB を置いたのが「ドロップボックス」である。

中小企業は、ソーシャルメディアやクラウドを利用して、「自社の強み」を発信して世界に進出すべきであり、今、それらを利用しないと伸びるチャンスを失うことになりかねない。



優良工場見学会 開催

2012. 11. 14 伊勢崎織物会館、富士重工(株)群馬製作所

11月14日、日本筆記具工業会は日本鉛筆工業協同組合との共催により「優良工場見学会」を開催いたしました。今回は群馬県にある伊勢崎織物会館と富士重工(株)群馬製作所の見学を行いました。

■ 伊勢崎織物会館



伊勢崎は古くから絹織物が盛んな町で、今回は伊勢崎織物協同組合さんに解説をお願いし、伊勢崎織物会館で明治・大正・昭和を通じて「いせさき銘仙」として知られた伝統工芸品「伊勢崎緋(かすり)」の製造工程について学びました。

まずは糸の染色から。縦糸、横糸とも織り上がった図柄の状態を想定して糸に色を着けていきます。縦糸だけ色を着けるものや、横糸だけ色を着けるもの、あるいは双方に色を着けるもの。当然同じ図柄でも風合いというか織り上がった感じが違います。織ってから色を着けるのと違って、

下手な職人が色着けをしたり、織ったりすると図柄が崩れてしまい売り物になりません。相当熟練を要する作業です。分業化された工程を経て織物が作られていきますが、昔は200人以上いた組合員も今は70名くらいになったとか。伝統工芸を次の時代に残すことの難しさを痛切に感じました。



■ 富士重工(株)群馬製作所 矢島工場



午後からは太田市にある富士重工(株)群馬製作所矢島工場の見学に向かいました。

矢島工場は約55万㎡の広さをもつ工場です。従業員約2,500人2交替制で自動車を作っています。車種としては、レガシヤやエクシーガ、インプレッサ、フォレスターというスバルの主力車種がそろっています。

ここには、エンジン本体を作る工程はありませんが、それ以外のプレス工程、溶接工程、塗装工程、トリム(組立)工程、検査工程がすべてそろっており、いろんな車



念です。)

種が同じラインを次々流れていくのが見えました。

工程によって作業する人の数が違い、組立工程や検査工程には思った以上にたくさんの方が手で作業をしており、車に温かみを感じました。

ビジターセンターでは、スバル 360 から始まり富士重工の歴代の車が展示されており、特にスバル 360 には郷愁みたいなものを感じました。(最初の頃のスバル 360 には、フェンダーミラーというかサイドミラーが無かったんですよ。)

スバルの車はパワフルな車が多く、国内より海外の方が評価は高いようです。輸出比率が80%くらいあるとのことでした。

最後に富士重工の前身である「中島飛行機」が作った国産初のジェット練習機「初鷹」の前で記念写真を撮りました。

(スペースの都合で写真を紹介できないのが残

第9回 JWIMA 会員親睦ゴルフコンペ

2012. 9. 27 桃里カントリー倶楽部にて



当日はお天気も良く、行き届いた名門コースでゆったりとした気分でプレーをすることができました。皆さんリフレッシュができたのではないのでしょうか。

今回の優勝者は、東京金属工業(株)の藤原茂起さんでした。おめでとうございます。

次回は、第10回記念となりますので、皆さん奮ってご参加ください。



9月27日(木)第9回 JWIMA 会員親睦ゴルフコンペを栃木県下都賀郡岩舟町の桃里カントリー倶楽部で開催いたしました。



EWIMA(欧州筆記具工業会)技術委員会 出張報告

2012. 10. 10 ドイツ・ミュンヘンにて 報告：塩井恵子（国際標準提案事業委員長）

平成24年10月10日に開催されたEWIMA技術小委員会に出席しました。

この会議への出席の主目的は、ISO活動の進展状況を報告し日本の意見への理解を求めることです。ただし、5月のISO会議で日本の狙い通りの結論となった後は特に動きがないため、今回は5月の会議の議論と結論の紹介のみとなりました。安全尾栓のISO規格が取り下げになったことは出席者に喜ばれました。

ISO以外では、EN71-3の分析方法と規格がどうなるか、殺生物性製品規則やナノマテリアルの規制

への筆記具や描画用具への影響はどうかに関心がありました。まずEN71-3では、分析方法案に従って幾つかの試験室で分析してもらったところ、4元素で良い結果を得たものの、その他の元素ではひどい結果だったそうです。CENメンバーも出席しており、その時の会議の様子を報告してくれましたが、来年早々には決定しないと間に合わないこと、第2回の試行分析をやる予算がないこと、現行のEN71-3でも同様であったが成立したらなんとかなったことなどから、今回も強引に成立させるという予定だそうです。こういうところに振り回されているわけです。



殺生物性製品規則、ナノマテリアル、ブラジルの学校で使用する製品の動物実験、違法伐採品の輸入を禁止するEU木材製品規則、フタレート禁止の拡大、多環芳香族炭化水素の新規制、筆記具のチップやクリップからのニッケル溶出、アメリカカリフォルニア州の吸入性二酸化チタンの発がん物質指定等、非常に多くの話が出ましたが、どれもまだ検討中とか実施は始まっているようだが詳しくは分かってないという状況でした。これらに関しては詳しい情報が入れば製品安全小委員

会で報告します。

ドイツはもう冬になっていて、朝方には吐く息が白くなりました。いろいろ難しい問題を一気に頭に入れたので疲れ、帰国後には風邪をひいて大好きな水泳ができませんでした。

平成24年 第3四半期委員会・部会活動

<総務 関係>

- 7.6 書育推進協議会運営委員会
 ・第3回通常総会議案ならびに運営について
 ・書育フォーラム2012について
 (講演会、書育実践賞表彰・発表)
 ・会員交流会について
 ・その他

<調査研究・広報 関係>

- 7.25 調査研究・広報委員会(平成24年度 第2回)
 ・JWIMA 技術交流会のリニューアルについて
 ・その他
- 8.28 調査研究・広報委員会(平成24年度 第3回)
 ・JWIMA 技術交流会のリニューアルについて
 ・その他
- 10.5 調査研究・広報委員会(平成24年度 第4回)
 ・JWIMA 技術交流会アンケート集計について
 ・新・技術交流会コンセプト案について
 ・その他

<流通 関係>

- 7.24 流通小委員会(平成24年度 第1回)
 ・消費税増税の係る表示等の対応について
 ・カーボ ソフト プリント制度に関する動向について
 ・小型家電リサイクル法について
 ・その他
- 8.7 お客様相談窓口連絡会(平成24年度 第3回)
 ・各社のお客様対応事例について
 ・お役立ち情報(シャープペンシル編)の見直しについて
 ・その他
 (C-files 更新について)
- 10.25 お客様相談窓口連絡会(平成24年度 第4

回)

- ・各社のお客様対応事例について
- ・お役立ち情報(シャープペンシル編)の見直しについて
- ・その他

<技術国際 関係>

- 7.10 マーキングペン部会(平成24年度 第1回)
 ・ISO/TC10/WG18 オーランド会議報告
 ・その他
- 7.17 シャープ しん・鉛筆しん JIS 追補改正分科会
 ・しん濃度測定器スポット径について
 ・JIS S 6005, JIS S 6006 追補改正原案について
- 9.5 製品安全小委員会(平成24年度 第2回)
 ・ISO/TC10/WG18 ベルリン会議報告
 ・筆記具安全基準について
 ・安全関連情報について
 ・その他
- 10.1 シャープペンシル部会(平成24年度 第1回)
 ・JIS S 6013 の5年見直しについて
 ・ISO 9177-1,-2,-3 に対する改正提案の検討
 ・その他
- 10.3 マーキングペン部会(平成24年度 第2回)
 ・H24年度上期部会活動報告について
 ・筆ペンの業界基準作成について
 ・その他
- 10.3 技術国際委員会(平成24年度 第1回)
 ・H24年度上期各部会活動報告について
 ・国際標準提案活動報告について

<全文協との共催 関係>

- 7.4 合同知的財産部会

お知らせ

12月5日(水) JWIMA講演会・懇親会

会期 平成24年12月5日(水)

午後5時～講演会 6時20分～懇親会

会場 上野精養軒

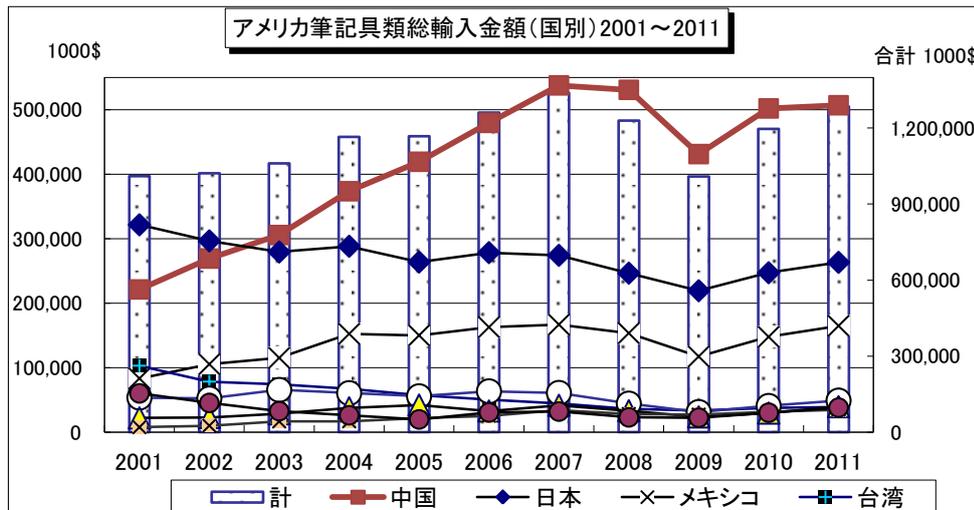
講師 山本浩二さん(元 プロ野球選手、2013年WBC日本監督)

現役時代は[広島東洋カープ](#)で長きにわたって活躍し、「ミスター赤ヘル」の愛称で親しまれた。2008年野球殿堂入り。2013年WBCの日本監督として活躍を期待されている。



JWIMA 編集 アメリカ貿易統計 2011 より

()内の%は前年比を示す

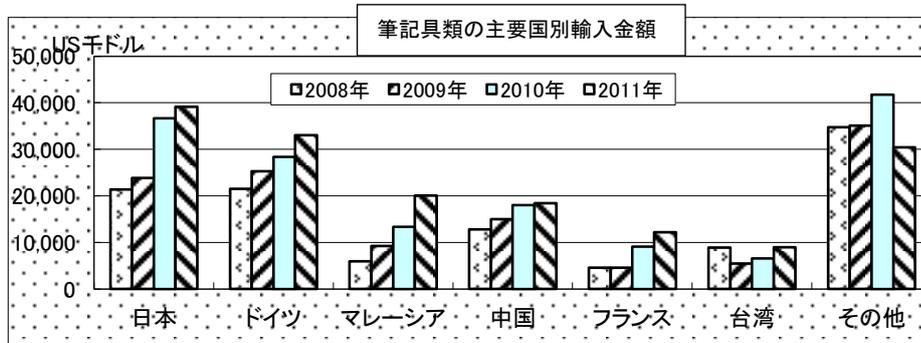


2011 年アメリカの筆記具輸入金額は、前年ほどの伸び(15.8%)はなかったものの、1,285 百万ドル(7.4%)となりほぼリーマンショック以前のレベルまで回復した。品目別の金額前年比は、ボールペン(+7.3%)、マーキングペン(+3.5%)、シャープペンシル(+3.2%)、万年筆

(+15.2%)、鉛筆(+22.3%)であった。国別では、中国 507 百万ドル(+1.0%)、日本 263 百万ドル(+6.5%)、メキシコ 165 百万ドル(+11.5%)となっており、少し中国の勢いに陰りが見え始めたように感じる。

ボールペンの輸入単価(1ドル80円換算)は、日本が36.16円に対し、中国12.60円、メキシコ5.15円、インド5.40円となっており、低価格を求める層からは中国もすでに敬遠されるようになっているのかも知れない。ただアメリカでは、多少高くても良いものを求めるユーザーもたくさんおり、日本の筆記具はそういう人たちの需要に応えている。

JWIMA 編集 中国貿易統計 2011 より



2011 年中国の筆記具輸出は、2,020 百万ドル(+8.6%)となり昨年ほどの伸長はなかったが、対前年160 百万ドル増という伸びを示した。品目別にみるとボールペン(9.4%)、マーキングペン(4.1%)、シャープペンシル(2.4%)、万年筆(-19.0%)、鉛筆

(18.2%)となっており、ボールペンと鉛筆が好調である。部品関係もボールペン用中しん(32.5%)、鉛筆しん(23.7%)が好調であった。国別輸出金額の対前年比は、アメリカ(2.3%)、ドイツ(19.1%)、日本(14.1%)、イギリス(5.8%)とアメリカ輸出の鈍化が気になるところである。

輸入金額は、筆記具全体で162 百万ドル(5.4%)で、品目別の対前年比はボールペン(29.2%)、マーキングペン(14.2%)、万年筆(18.2%)、鉛筆(15.3%)と、シャープペンシル(-13.7%)を除く主要筆記具完成品が大きな伸びを示していた。国別では、日本(構成比24.1%)、ドイツ(構成比20.4%)が大きな比率を占めている。(日本は普及品、ドイツはボールペン・万年筆等高級品)中国の日本製品の輸入金額はここ2年くらいで急激に増えており、ボールペン(構成比29.7%)、マーキングペン(構成比35.9%)、シャープペンシル(構成比83.0%)、筆記具部品(構成比26.8%)、ボールペン用中しん(41.1%)、鉛筆しん(構成比55.4%)となっている。中国が第二のアメリカ(日本の最大輸出国)になるのだろうか。

※詳しくは10月に会員各位宛て送付した上記貿易統計の冊子をご参照ください。